



豊かな心を育む

校長 角 保宏

11月11日（日）に行われた日曜参観では、たくさんの保護者の方々にご来校いただき、子供たちの学校生活の様子を参観していただきました。ウィークリー授業参観の雰囲気とは違っていたからでしょうか、いつもより少し緊張気味の子供たちの姿がとても可愛らしく印象的でした。

保護者の皆様、ご来校誠にありがとうございました。

さて、日本では「文化・芸術の秋」「実りの秋」と称されるこの時季ですが、ジョホール日本人学校でも子供たちは多くの文化的行事や国際交流活動を楽しみ、実り多い充実した日々を過ごすことができました。中学部の国際交流活動ではコタ・マサイⅡ校を招き、日本の伝統的な遊び（けん玉・おはじき）、折り染め、茶道、お好み焼きづくりといった4つのコーナーを設けて両校の子供たちが仲良く一緒になって活動を楽しみました。また、小学部ではスリ・アラムⅠ校を招き、低学年（1～3年）は体育館で紙飛行機、輪投げ、けん玉、こま、竹馬といった日本の伝統的な遊びを、高学年は4年（こま、スライム、ドロケイ）、5年（こま、けん玉、だるま落とし）、6年（和太鼓、竹馬、折り紙）と学年ごとに分かれて、それぞれ交流活動を楽しむことができました。さらに、小5・6年では寛柔第一小ならびにSIJB LEARNING CENTRE（難民学校）との交流を行い、これらすべての国際交流活動によって大きな成果を収めることができました。それぞれの国際交流活動を行う中で、セレモニーでの挨拶、あるいは自分の思いや考えなどを英語やマレー語・中国語を使って一所懸命に相手に伝えようと努力している姿が大変印象に残っています。こういった国際交流活動を通して、様々な国の人たちとのコミュニケーション能力がさらに高まり、平和でより良い世界の実現に将来貢献できるグローバルな大人として成長してほしいと思います。また、毎年恒例となった第7回「能楽教室」、第15回「のまりんさんの紙芝居」ではJ・S・Jならではの文化的活動を楽しむことができ、その他にも多くの学年が校外学習によって社会的な見聞をより一層広めることができました。

このように、文化や生活習慣の異なる人たちと接したり、経験豊富な人たちから生き方やものの考え方などを学ぶ機会を得る、こういった教育活動は子供たちの『豊かな心』を育む上でとても重要です。

各学年で発行している通信や壁新聞などから国際交流活動における子供たちの感想文を読んでいると、『異なる国の人々と交流することにより、その国の良さについてただ単に知ることができただけでなく、日本という国を改めて深く見つめ直し、日本の良さを再発見することができました』といった内容の感想があり、この活動の教育的意義を改めて強く感じました。また、自分の職業にやりがいを持って仕事をされている大人の方たちが自らの経験を子供たちに直接語りかけ、自分の生き方を具体的に示すことによって、子供たち自身がこれから進むべき方向性をもう一度見つめ直し、自分の将来について深く考え、どのような進路を目指していくべきか、このようなことを考えるひとつのきっかけづくりになったことと思います。

子供たちが体験した文化的行事、国際交流活動、校外学習といった活動内容における様々な情報をご家庭においても是非共有して頂き、活動経験を通して何を学んだのか、あるいは将来の夢や生き方などについてどう思うのかなど、親子でじっくりと語り合っただけなら幸いです。